

栄養士校外実習にみる意識の変化：短大生の場合

著者	宇和川 小百合, 色川 木綿子
雑誌名	東京家政大学研究紀要 2 自然科学
巻	44
ページ	23-30
発行年	2004
出版者	東京家政大学
URL	http://id.nii.ac.jp/1653/00010743/

栄養士校外実習にみる意識の変化 —短大生の場合—

宇和川 小百合, 色川 木綿子

(平成15年10月2日受理)

Changes in Views during Dietitians' Practical Training —The Case of Junior College Students—

UWAGAWA, Sayuri and IROKAWA, Yuko

(Received on October 2, 2003)

キーワード：短大生, 栄養士, 校外実習, イメージ

Key words : junior college student, dietitian, practical training, image

1. はじめに

栄養士の歴史において、その活動は、明治5年富岡製糸工場で集団給食が開始されたのが始まりであり¹⁾、仕事は集団給食が中心であった。大正3年になると、佐伯矩博士により、私立栄養研究所が開設されて、研究と栄養思想の普及が行われた。大正15年には、栄養学校の第1回卒業生15名が「栄養技手」と呼ばれて世に出た。その後、昭和24年に栄養士試験が実施され(のちに廃止)、昭和62年からは管理栄養士国家試験が実施されている。

法制度では、昭和22年に、栄養士法・食品衛生法が、昭和27年栄養改善法、昭和29年学校給食法が公布され、整えられてきた。これら、栄養士に関わるさまざまな法律は、時代の変化とともに、幾度か改正されてきた。最近では、平成12年に栄養士法改正が公布され、厚生労働省では、その趣旨を踏まえて、管理栄養士・栄養士養成施設カリキュラム等に関する検討会²⁾が設置され、それに伴い、各管理栄養士・栄養士養成施設でも新たなカリキュラムが作られた。同時に、管理栄養士・栄養士の校外実習も限られた時間の中で、教育効果を高めるため検討会等が設置され³⁾、内容が検討されてきた。

平成14年4月から改正栄養士法が施行され、管理栄養士・栄養士養成施設でも、新しいカリキュラムが始まった。また、平成12年には、国民の健康づくり運動である

「健康日本21」(厚生省)が始まり、その推進や平成15年5月からは、栄養改善法から新たに、健康増進法が施行された。このように、栄養士を取り巻く環境は大きく変化している。そのような中で、学生の栄養士業務の就業の状況は、その活動の場が広がりつつあった^{4), 5)}ものが、社会経済状況の変化もあってそれ以上に拡大していない。全国の2年制の栄養士養成施設をみても、栄養士業務の就職者数は、平成13年度で33.8%⁶⁾と管理栄養士養成施設の栄養士業務就職者数(53.6%)と比較しても少なく、また、前年度(31.4%)と比較してもそれほど増えていない。本学においても栄養士業務就職者は、短大の栄養科で約35%⁷⁾(平成13年度)と全国平均とほぼ変わらない。短大では、栄養士資格を取得し、栄養士業務への就労で、希望する専門業種に学生が就くことはなかなか難しい状況にある。

そのような状況の中で、これからの担う栄養士を養成する役割は大きいといえる。そこで、学生の栄養士や校外実習に対する意識を調査した。これら、栄養士に対する学生の意識調査は数が少なく^{8)~11)}、学生を把握する上で必要なものと考えた。また、以前行われている調査は、卒業前後の就職に対する意識等が中心のものが多いので、校外実習を中心として調査・検討を行い、新カリキュラムへの対応や今後の校外実習そして学生指導に役立てたいと考えた。

2. 調査対象および方法

- 1) 調査対象：東京家政大学短期大学部 栄養士課程履修者 312名
- 2) 調査時期：入学してすぐの1年次と2年次の栄養士資格取得のための校外実習終了時の2回、同一対象者に対して調査を行った。調査時期は、1年次は平成11年5月、2年次は平成12年6月から12月の期間
- 3) 調査方法：質問紙法による調査用紙を配布し、その場で回答させて回収した。(回収率100%)
- 4) 調査内容
 - (1) 入学時：①栄養科を選んだ理由、栄養士に興味を持った時期ときっかけ、身近に栄養士として働いている人がいるか ②栄養士資格取得と理由、なりたい業種、栄養士のイメージ、予想する仕事内容 ③実習に行ってみたい施設と実習期間、実習でしたい内容、実習に必要なと思う事、実習に対する気持
 - (2) 校外実習終了時：①栄養科で学んだ感想 ②栄養士資格取得と理由、なりたい業種、栄養士のイメージ、仕事内容 ③実習したい施設と実習期間、実習でしかなかった内容、実習に必要なと思う事、実習を終えた感想
- 5) 集計方法：(株)現代数学社の「データ解析用ソフト HALWIN」を使用した。

3. 結果および考察

1) 入学時の意識

入学時の意識について、栄養科を選んだ理由(複数回答)としては、表1のとおりである。「栄養・食べ物に興味があったから」(75.0%)、「生活に生かせそう」(27.2%)、「資格がとれる」(22.4%)の順であった。圧倒的に、栄養や食べ物に興味があって入学してきた学生が多いことがわかる。同じような調査を行っている齋藤ら^{9)・10)}

表1 栄養科を選んだ理由

	人 (%)
栄養・食べ物に興味があった	234(75.0)
生活に生かせそう	85(27.2)
資格がとれる	70(22.4)
家庭科が好き	24(7.7)
理系が好き	7(2.2)
まわりにすすめられた	3(1.0)

によると栄養科への志望理由は「栄養士の資格をとるため」「生活に役立つと思ったから」「健康・栄養に興味があったから」の順に多く、本学の調査結果とは異なる傾向が出ている。

また、栄養士の仕事に興味を持った時期ときっかけをみると、意識した時期は、圧倒的に「高校生」のときが多い。興味を持ったきっかけは「料理が好きだから」(37.2%)、「大学入試で調べていて」(23.1%)、「自分やまわりの人が身体を悪くして」(19.9%)という順になっている。これを表2のように、意識した時期ときっかけをクロスすると、高校生の時期では同様の順となっているが、中学生の時期に興味を持ったきっかけは「料理が好きだから」(42.6%)が圧倒的に多いが、「自分やまわりの人が身体を悪くして」(16.4%)、「栄養士の仕事を見たり、接したりすることがあったので」(14.8%)となっている。これは、中学では学校給食や授業で学校栄養職員と接する機会を得て、そこから興味を持ったことが影響しているのではないかと考えられる。これらのうち、「大学入試で調べていて」($p < 0.05$)、「栄養士の仕事を見たり、接したりすることがあったので」「その他」($p < 0.001$)の3項目は意識した時期と有意に差が認められた。

また、自分の身近に栄養士として働いている人がいる割合は、全体の10.9%と少ない。具体的に職種を聞くと、「病院」(36.7%)、「学校」(23.3%)と続く。他にも「事業所」や「行政関係」、「企業の研究職」などが挙げられている。身近に存在する割合も少なかったが、全体に栄養士は学生たちが接するような場所に存在せず、身近な対象となっていないことがわかる。

2) 栄養士の資格について

栄養士の資格をとりたいか尋ねた結果(表3)、入学時には、栄養士資格を「とりたい」が97.8%、「無回答」が2.2%であった。これは、ほぼ全員が栄養士資格をとることを目標としていることがわかる。これに対して、校外実習(以下、実習)後は、栄養士資格を「とりたい」が95.5%、「とりたくない」が4.2%、「無回答」が0.3%であった。実習は、2年次に行うが、実習までに卒業後の進路が決定していたり、学内での授業・実習を受け、さらに校外実習を経験することにより、自分の適不適を見極めるようになったことなどが考えられる。

また、入学時に資格をとる理由、実習後に資格を生かす理由を尋ねたところ(表4)、入学時では「卒業後、栄養士の専門職につきたい」(52.9%)、「卒業直後でなく

栄養士校外実習にみる意識の変化

表2 栄養士の仕事に興味を持った時期ときっかけ

	人 (%)				
	大学受験直前 n=10	高校生の頃 n=254	中学生 n=61	小学生 n=10	その他 n=4
大学入試で調べていて	3(30.0)	65(25.6)	4(6.6)	0	0 *
身近に栄養士をしている人がいて	0	11(4.3)	3(4.9)	0	0
自分の家の仕事に関係があるので	0	4(1.6)	0	0	0
栄養士の仕事を見たり, 接したりすることがあったので	0	6 (2.4)	9(14.8)	2(20.0)	0 **
TV・マスコミの影響で	0	15(5.9)	3(4.9)	0	0
料理が好きだから	2(20.0)	83(32.7)	26(42.6)	2(20.0)	1(25.0)
自分やまわりの人が身体を悪くして	3(30.0)	45(17.7)	10(16.4)	3(30.0)	1(25.0)
その他	2(20.0)	25(9.8)	6(9.8)	3(30.0)	2(50.0) **

* p<0.05 ** p<0.001

表3 栄養士資格取得

	人 (%)		
	はい	いいえ	N. A
入学時	305(97.8)	0	7(2.2)
校外実習後	298(95.5)	13(4.2)	1(0.3)

表4 栄養士資格を取る理由・生かす理由

	人 (%)	
	入学時	実習後
栄養士の専門職につきたい	165(52.9)	65(20.8)
いつか資格を生かした職業につける可能性があるから	114(36.5)	154(49.4)
ただ卒業するより資格を持っていたほうが良い	18(5.8)	44(14.1)
まわりの人達(親など)のすすめで	2(0.6)	0
資格を生かさなくても勉強になるから	18(3.8)	47(15.1)

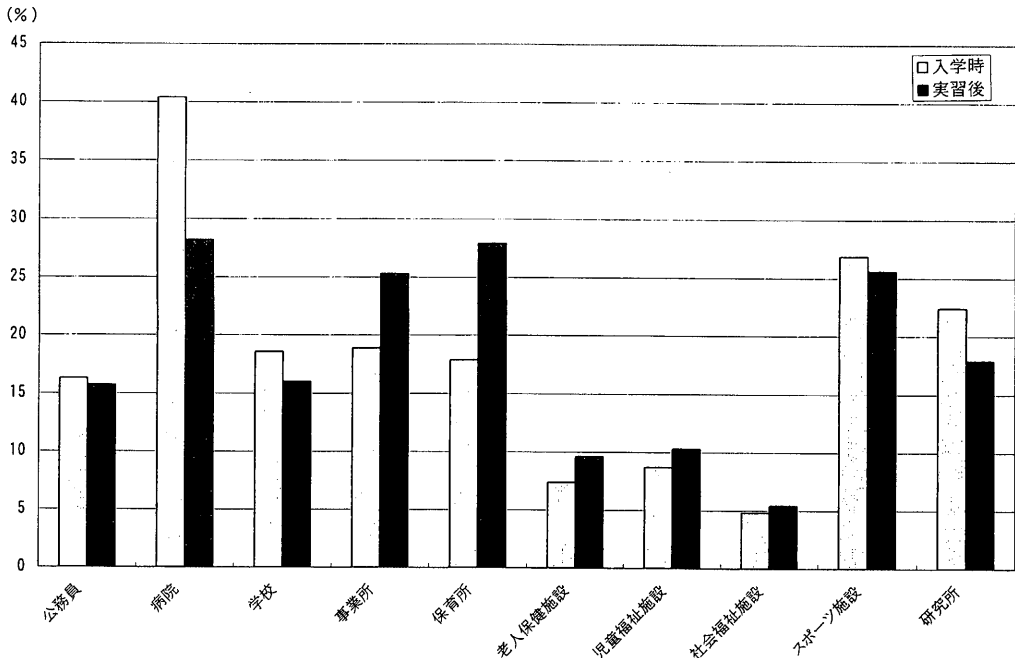


図1 栄養士としてなりたい業種

とも、いつか資格を生かした職業につける可能性があるから」(36.5%)、「ただ卒業するより資格を持っていたほうが良いと思うから」(5.8%)の順であるのに対し、実習後では、「卒業直後でなくとも、いつか資格を生かした職業につける可能性があるから」(49.4%)、「卒業後、栄養士の専門職につきたい」(20.8%)、「資格を生かさなくても勉強になるから」(15.1%)と、その理由は変化し、「栄養士の専門職につきたい」が、実習終了時には入学時の半分以下、全体の2割と少なくなっている。前述のように、実習後は就職活動をとおして、または、いろいろな情報を入手することによって、学生自身も現実的に捉えている結果が現れているのではないと思われる。また、平成13年度管理栄養士・栄養士養成課程卒業生の栄養士業務就職者数をもても、2年制短期大学では33.8%⁶⁾となっており、資格を生かす道も狭くなっている。

3) 栄養士の業種について

栄養士の専門職に就くとしたら、どの業種が良いか、入学時と実習後で比較した(図1)。入学時では、「病院」が圧倒的に多く、次いで「スポーツ施設」や「研究所」である。実習後は「保育所」や「病院」、「スポーツ施設」、「事業所」が多く挙げられている。入学時には多かった「病院」や「研究所」が、実習後では減っており、逆に「保育所」や「事業所」といった場所を希望する学生が増えている。これは、就職活動等で、病院は管理栄養士が望まれる場合が多く、短大生の栄養士の専門職を考えた場合、多くは委託会社や保育所等に勤務することが多いため、現実的な回答が結果に現れているのではないだろうか。また、「スポーツ施設」は実際の就職数は少ないが、オリンピックやサッカー選手の栄養士がマスコミなどに取り上げられているので、憧れも強く、スポーツ栄養士を希望している学生の多さがこれからも見受けられる。

4) 栄養士のイメージ

入学時と実習後に、栄養士の専門職のイメージをSD法により回答させた結果(図2)、入学時と実習後では、さほど栄養士に対するイメージに差がないことがわかる。これは、栄養に興味があり、ある程度栄養士像を把握して入学してきているからであると思われる。

全体的には、「複雑、難しい、せかせか、強い、地味、温かい」というイメージが強く、責任ある忙しい地味な仕事という印象で捉えているようである。

入学時と実習後とを比較すると、「明るい、強い、厳

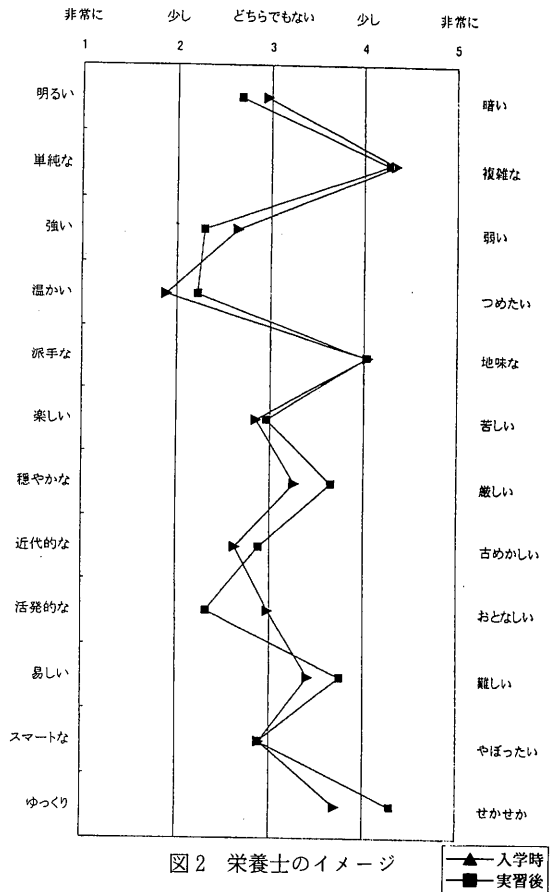


図2 栄養士のイメージ

しい、活発的、難しい、せかせか」のイメージが実習後に、やや強くなっており、栄養士とは大変な仕事であるという印象が、強まっているようである。ただし、「活発的、厳しい、難しい」は、バラツキが大きい。

5) 栄養士の仕事内容

栄養士の仕事内容について予想される業務を自由記述で回答させたところ、入学時では「献立作成」、「栄養指導」、「調理・食事作り」が圧倒的に多かった。「栄養計算」や「栄養管理」といった回答もあった。また、献立を作成し、栄養価計算をして、それを調理し提供する、という一連の流れを記入している学生も多くいた。「献立作成」や「栄養指導」は「その人にあった」、「病気が回復するような」、「所要量にあわせて」と具体的に書かれていることがあり、具体的な内容にふれていたことは意外であった。「献立作成・食事作り」は、齋藤ら^{9)・10)}の調査でも、栄養士の業務内容として、多く予想されている結果となっており、同じような結果であった。

実習後では、入学時と同様に「献立作成」、「栄養指導」、

「調理・食事作り」が圧倒的に多かったが、実習後とあって、「経営管理」、「衛生管理」、「施設管理」、「人事管理」や「治療食作り」、「対象者へのサービス」、「各種調査」等、具体的に書かれている。実際勉強してきたことも含めて実に詳しく書かれており、実習や学んできたことがよく反映されている。

6) 実習施設と期間について

入学時には実習してみたい施設、実習後には実習したかった施設の結果を表5に示す。入学時には「病院」で実習を希望する学生が多く(34.9%)、「スポーツクラブ」(15.7%)、「会社」(14.4%)と続く。対照的に実習後では、「スポーツクラブ」(26.0%)、「保育所」(25.3%)、「学校」(16.3%)と希望する施設が異なっている。また、本学で実際に校外実習に行く施設は、病院が8割で、残りが事業所か学校へ実習に行っている。そのためか、実習後ではそのほかの施設(保健所、病院、会社、老人保健施設、社会福祉施設)がほぼ同じくらいの希望になっていて、入学時のようなばらつきはみられない。

表5 校外実習の希望施設

	人 (%)	
	入学時	実習後
学校	37(11.9)	51(16.3)
保健所	14(4.5)	27(8.7)
病院	109(34.9)	21(6.7)
会社	45(14.4)	19(6.1)
老人保健施設	13(4.2)	21(6.7)
社会福祉施設	7(2.2)	13(4.2)
スポーツクラブ	49(15.7)	81(26.0)
保育所	35(11.2)	79(25.3)

実習を行いたい期間を尋ねたところ(表6)、入学時も実習後も「1週間」が半数を占め、ついで「2週間」という期間である。

表6 校外実習の希望実習期間

	人 (%)	
	入学時	実習後
1日	3(1.0)	6(1.9)
2~3日	13(4.2)	39(12.5)
1週間	145(46.5)	168(53.8)
2週間	106(34.0)	85(27.2)
3週間	18(5.8)	6(1.9)
4週間	18(5.8)	6(1.9)
2~3ヶ月	5(1.6)	0
5~6ヶ月	1(0.3)	1(0.3)

7) 実習内容及び実習を行う時に必要だと思うこと

実習で、したいこと・したかったこと(図3)は入学時では「栄養士の仕事内容を知る」が多く、「食事作り」と続く。入学したばかりで、ある程度栄養士像をつかんではいけるものの、実際の仕事内容を知り、これから学んでいくことに生かしていきたいのではないかとと思われる。また、食事作りは、栄養士の仕事内容でも学生があげていたとおり、栄養士の業務内容の一つとして、多くの学生が認識している。

実習後では「食べている人の様子を見る」が圧倒的に多く、次いで「栄養士の仕事内容を知る」、「栄養士と話をしたい」である。授業では、喫食者の様子を見ることは出来ないのも、実習先では自分たちが携わった食事に対して、直接、喫食者の意見を聞いてみたいと思っている。また、実際に仕事をされている栄養士の方々と話をする機会が少ないため、実習先では、現場での実際の話を知りたいと思っていることがわかる。

実習を行う時、自分に必要なこと・必要だと思ったこと(図4)は、入学時では「積極性」や「知識」、「心構え」が多い。実習後でも「積極性」が必要だと感じた学生は圧倒的に多い。入学時ではそれほど必要だと感じていなかった「挨拶」や「体調をととのえる」といったことを「積極性」の次に挙げている学生が多く、実際に実習を行って必要なことに変化が現れていることがわかる。

8) 実習後の意識

実習後の意識として、実習を終えた感想(表7)は、「実習してよかった」(91.3%)が圧倒的に多い。栄養士の仕事内容の自由記述をみてもわかるように、実際に学外で実習を行うことによって、具体的に栄養士という仕事を捉えられた素直な感想が、この結果に現れていると思われる。逆に「どうも思わない」(1.3%)、「しなければよかった」(0.3%)と思った学生もいた。「他の施設でよかった」学生が7.1%いたが、実習施設は、毎年変動があるため、本学では基本的に学生の希望とはらずに、担当者が実習施設を割り当てているため、こういった希望も現れていると思われる。

表7 校外実習を終えた感想

	人 (%)
実習してよかった	285(91.3)
どうも思わない	4(1.3)
しなければよかった	1(0.3)
他の施設でよかった	22(7.1)

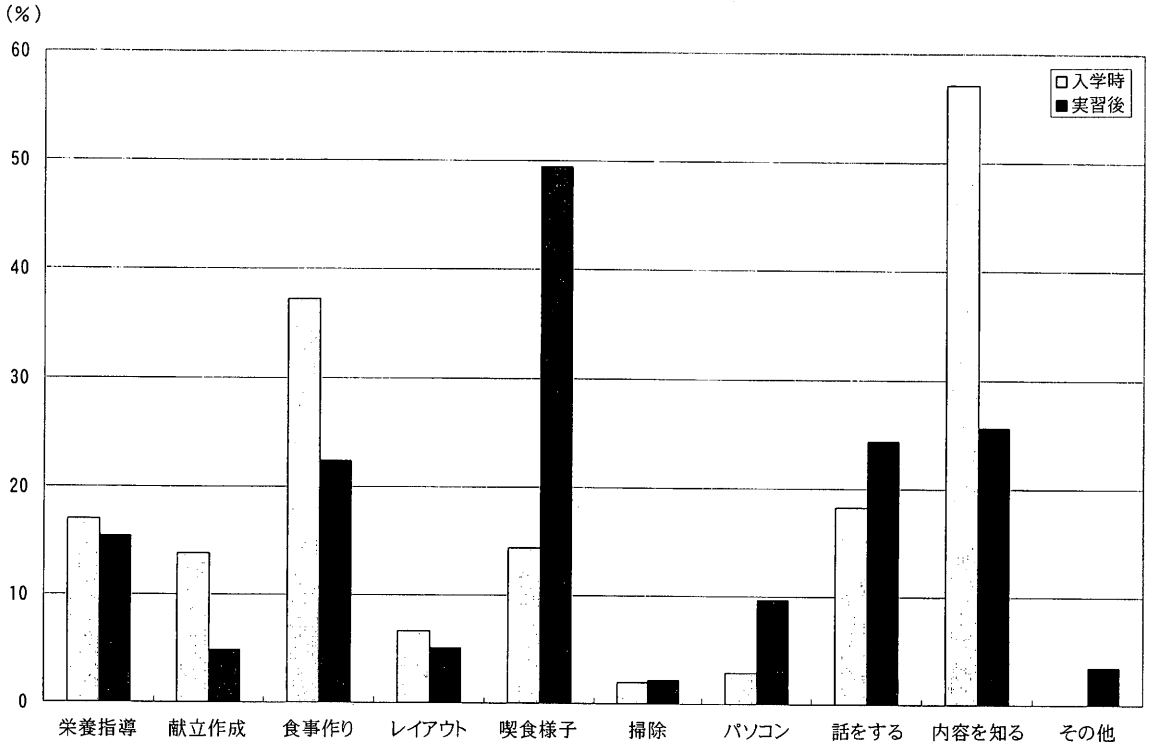


図3 校外実習でしたいこと・したかったこと

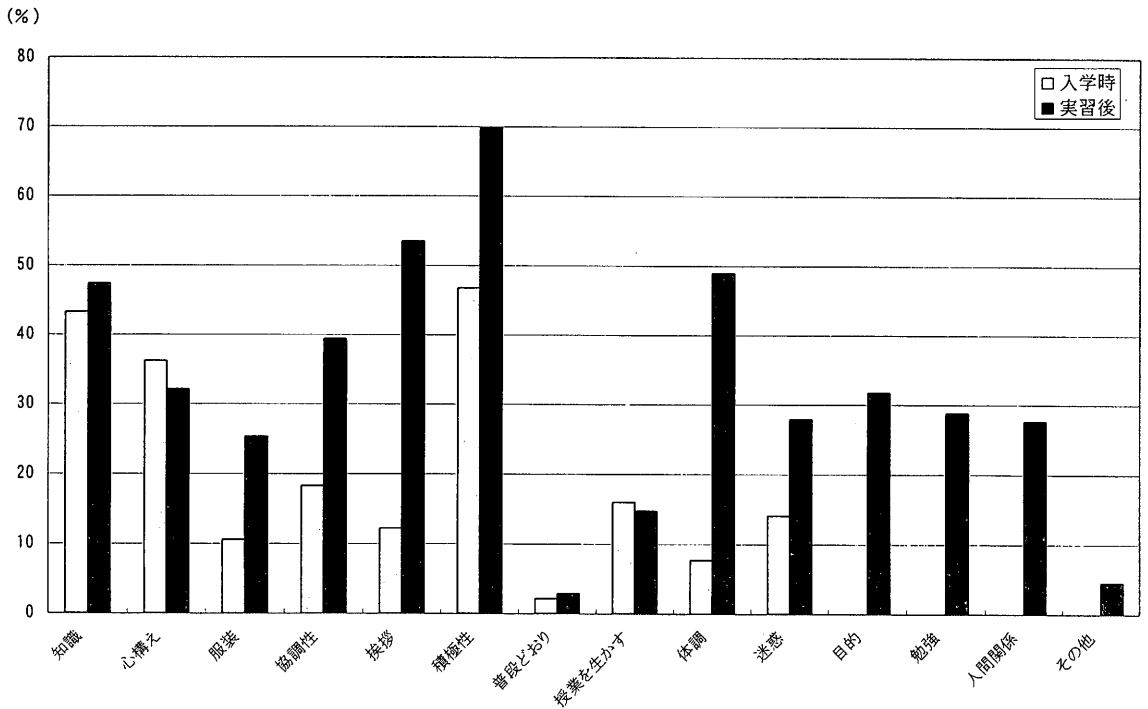


図4 校外実習を行う時に必要なこと

また、栄養科で学んだ感想については、「入ってよかった」が92.3%と最も多く、「どうも思わない」は6.7%、「入らなければよかった」が1.0%であった。入学時の「栄養科を選んだ理由」の回答からもわかるように、「栄養や食べ物に興味」があり、「栄養士の資格をとる」という目的意識をしっかり持っていることが、この結果にもつながっているものと考えられる。

4. まとめ

栄養士を養成する立場として、新カリキュラムへの対応や校外実習そして学生指導に役立てることを目的に、短大生を対象にして、校外実習を中心とした調査を行った結果は以下のとおりである。

1) 入学時に栄養科を選んだ理由は、「栄養・食べ物に興味があったから」(75.0%)が圧倒的に多く、栄養士の仕事に興味を持ったのは、約8割弱の者が高校生の時期であり、きっかけは、「料理が好きだから」、「大学入試で調べていて」であった。また、身近に栄養士として働く人がいる者は、全体の10.9%と少なかった。

2) 入学時に資格をとりたい者は、97.8%だったが、実習後は95.5%とやや少なくなっていた。資格をとる理由として、「卒業後、栄養士の専門職につきたい」は、入学時の52.9%から実習後20.8%に、「卒業直後でなくとも、いつか資格を生かした職業につける可能性があるから」は、入学時36.5%から実習後49.4%と変化している。

3) 栄養士の専門職に就くとしたら、入学時では病院が圧倒的に多く、実習後は保育所、病院、スポーツ施設、事業所と分散している。

4) 栄養士に対するイメージは、入学時と実習後では、あまり差はなく、「複雑、難しい、せかせか、強い、地味、温かい」というイメージである。実習後は「明るい、強い、厳しい、活発的、難しい、せかせか」のイメージが、やや強くなっている。

5) 栄養士の仕事内容は、入学時では「献立作成」、「栄養指導」、「調理・食事作り」が多く、実習後では入学時と同じ内容に「経営、衛生、施設、人事の管理」や「治療食作り」、「各種調査」、「サービス」などもあげられている。

6) 実習をしたい施設は、入学時で病院34.9%、スポーツクラブ15.7%と多かった。実習期間は、入学時、実習後ともに1週間が半数以上を占め、ついで2週間だった。

7) 実習でしたいことは、入学時では、「栄養士の仕事内容を知る」が多く、次いで「食事作り」であるが、実習後では、「食べている人の様子を見る」が圧倒的に多く、次いで「栄養士の仕事内容を知る」、「栄養士と話をしてほしい」である。実習をするにあたって自分に必要だと思うことは、入学時では積極性、知識、心構えが多く、実習後では、積極性が圧倒的に多く、次いで挨拶、体調を整えるが多かった。

8) 実習をしてよかったは、91.3%と多く、また、栄養科で学んでよかったも、92.3%と多かった。

これらの結果を今後の学生教育に役立てるとともに、さらに調査を重ね、検討していきたいと考えている。

謝 辞

稿を終えるにあたり、調査にご協力頂きました本学学生に感謝いたします。

参考文献

- 1) (社)日本栄養士会ホームページ：
<http://www.dieti-tian.or.jp>
- 2) 厚生労働省ホームページ：
<http://www.mhlw.go.jp/>
- 3) (社)日本栄養士会、(社)全国栄養士養成施設協会編：
臨地・校外実習の実際－改正栄養士法の施行にあたって－、(2002)
- 4) (社)日本栄養士会：栄養日本、第41巻、4号、
pp.6～11、(1998)
- 5) 斎藤貴美子、井上節子：文教大学女子短期大学部研究紀要42集、pp.91～103、(1998)
- 6) (社)全国栄養士養成施設協会：全栄養協月報第506号、pp.46～47、(2002)
- 7) 東京家政大学：大学で何を学び、卒業後どう生きるか2003、(2003)
- 8) 吉野京子、鈴木久乃、足立己幸：第34回日本栄養改善学会講演集、242～243、(1985)
- 9) 斎藤貴美子、井上節子：文教大学女子短期大学部研究紀要43集、pp.57～66、(1999)
- 10) 斎藤貴美子、井上節子：文教大学女子短期大学部研究紀要44集、pp.17～28、(2000)
- 11) 吉田恵子、富田教代、吉田和子、千葉良子：第47回日本栄養改善学会講演集、pp.315、(2000)

Abstract

A survey of junior college students focusing primarily on their practical training outside school produced the following results.

Almost all the respondents began to develop an interest in becoming dietitians at high school, and one in ten had an acquaintance who was a dietitian. The images associated with dietitians were “complex, difficult, restless, strong, reserved and warm”. When admitted to junior college, what many students wanted to do during practical training was to find out about the type of work a dietitian does. After practical training, many wanted to see the circumstances of people eating. The requisites students gave as being necessary for practical training were “positiveness, knowledge and mental attitude” at the time of their admission, and “positiveness, greetings and keeping in good health” after practical training. Over 90% of the students surveyed were glad that they underwent practical training and studied nutrition.